

回覧用									

発行日	令和5年3月31日
発行元	災害対策課
所属長	森本 仁信
電話	06-6489-6165

防災対策情報便



令和5年3月号

1 マイ避難カード作成支援動画を公開しました

災害対策課では、マイ避難カードの作成について、地域の訓練や出前講座等で周知啓発してきました。今回、「いつでも」「誰でも」「何度でも」をコンセプトにマイ避難カードの作成支援動画を動画配信サービスにアップロードしています。

【マイ避難カード作成支援動画】

マイ避難カード			
災害の種類	洪水	名前	尼崎 太郎
メモ	●自宅が浸水想定区域 (1~2m) ●子どもとの避難は時間がかかるので、警戒レベル4「避難指示」を待たずに避難！		
判断	判断材料の入手 (自宅付近の何が危険？大雨や台風の際に何を確認する？) 避難情報 (テレビ・尼崎市防災ネットから) 指定河川洪水予報 (気象庁ホームページから)		
準備	逃げるとき (何がどうなったら逃げる？) 警戒レベル3「高齢者等避難」が発令されたとき 指定河川の洪水情報が発令されたとき (緊急通報メールから)		
実行	避難先 (どこに？どのルートで？) 昼 (明るいとき) ●●小学校 夜 (暗いとき) 自宅の3階		
完了	避難する方法 (誰と？歩いて？車で？) 昼 (明るいとき) 家族で歩いて避難 (河川沿いの道は通らない) 夜 (暗いとき) 家族全員自宅の3階へ待避		



<https://www.youtube.com/watch?v=kwEi8l9XnRI>

出来たら、家族やご近所の方と共有しましょう！！



ひょうご防災ネットでも「マイ避難カード」が作成できます！！

ひょうご防災ネット

スマートフォンアプリ版！

「ひょうご防災ネット」は兵庫県および兵庫県内の市・町から「避難に関する情報」などの緊急情報や、地震、津波、気象警報などの防災に関する様々な情報を利用者の方々に提供するサービスです。いつでも発生するかわからない災害に備え、ぜひダウンロードしてください！！

主な機能

避難に関する情報や各種気象情報などをプッシュ通知！

主要な配信情報

- 気象警報 (大雨・大雪・暴風)
- 津波警報
- 地震速報
- 気象情報 (大雨・大雪・暴風)
- 津波情報
- 地震情報
- 気象情報 (大雨・大雪・暴風)
- 津波情報
- 地震情報

いざという時に備え「マイ避難カード」を作成

いざというときに、速やかに避難行動がとれるように、学びながら自身で考えた避難行動に合わせたマイ避難カード (逃げ場所) や避難場所をアプリ内「カード」に保存できます。また、保存した逃げ場所に関する情報をプッシュ通知で受け取ると「マイ避難カード」を表示します。

【氾濫危険水位到達情報】 New!

兵庫県内の水位超過河川 (洪水により氾濫の被害が生ずるおそれのある河川) について、氾濫危険水位に到達したときにプッシュ通知でお知らせします。 (通知が形式で登録可能)

避難場所を地図で検索

1 2 外国語対応

設定された緊急情報を自動翻訳して表示します。

- 中国語 (簡体字・繁体字)
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- インドネシア語
- イタリア語
- 韓国語
- ポルトガル語
- スペイン語
- タイ語
- ベトナム語

【大雨危険度情報】 New!

設定した市・町の大雨の危険度 (土砂災害、浸水、濁水害) が警戒レベル以上になったときにプッシュ通知でお知らせします。危険度が高まっている場所を実際の「危険度分布マップ」で確認してください。 (登録市町村の範囲なし)

防災情報ポータルサイト

災害時に役立つと思われる、ポータルサイト (防災情報のリンク集) です。

音声読み上げ

スマートフォンの音声読み上げ機能を使い、配信した情報を読み上げることができます。

マイ避難カード

「自分の命は自分で守る」ためにも、「洪水」「土砂災害」「津波」「高潮」「ため池災害」の災害別の危険性を知り、どのような避難行動をどのタイミングでとればよいのかを考えておくことはとても重要です。

「マイ避難カード」は、ご自身で考えた内容をカードとして保存することができる機能です。

いざという時、速やかに避難行動ができるように平常時に「マイ避難カード」を作成しましょう！

ただ、災害はいつも同じではありません。マイ避難カードだけでなく、市町からの避難情報や気象情報、河川の水位、周囲の状況などに注意し、はやめはやめに避難行動をとるようにしましょう。

マイ避難カード

新しく作成する >

新しく作成する >

新しく作成する >

緊急情報
お知らせ
気象情報 配信履歴
マイ避難カード
防災関連 情報リンク

Androidの方はこちら



iPhoneの方はこちら



注目!

2 日頃からの備えを解説します！！

災害対策課では、YouTubeに「いろんな避難を考えよう！」と「家具の安全対策」の動画をアップしています。

「いろんな避難を考えよう！」では、そもそも避難とは何かということやどういった場所が避難場所として適切か、またマイ避難カードの紹介を行っている動画となっています。

「家具の安全対策」では、身の回りに潜む家具の危険性を確認し、道具などで固定する方法ではなく、手軽に今日からできる方法で防災・減災対策を勧めています。



災害対策課が解説！
いろいろな避難を考えよう！

動画はコチラ👉



<https://www.youtube.com/watch?v=-roNoNnWtGk>



災害対策課が解説！
家具の安全対策



<https://www.youtube.com/watch?v=HP5SsGDqkL8&t=34s>

3 南海トラフ大地震の発生確率と地震対策

(1) 南海トラフ地震の発生確率

- ・10年以内に発生する確率 → 30%程度
- ・30年以内に発生する確率 → 70～80%程度
- ・40年以内に発生する確率 → **90%程度へ引き上げ**



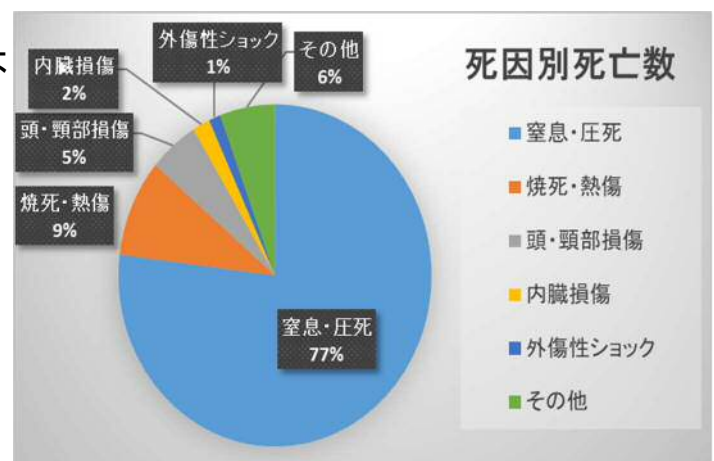
(令和元年まで80～90%程度) 地震調査委員会(令和2年1月発表)

(2) 地震への備え

過去の災害を振り返ると、阪神淡路大震災では約5,500名の方が亡くなりましたが、その内の8割弱の死因が「窒息・圧死」でした。

これは、家屋倒壊や家具の下敷きになり亡くなったことを意味しますが、建物の耐震化や家具の転倒を防ぐことで被害が軽減されると言われています。

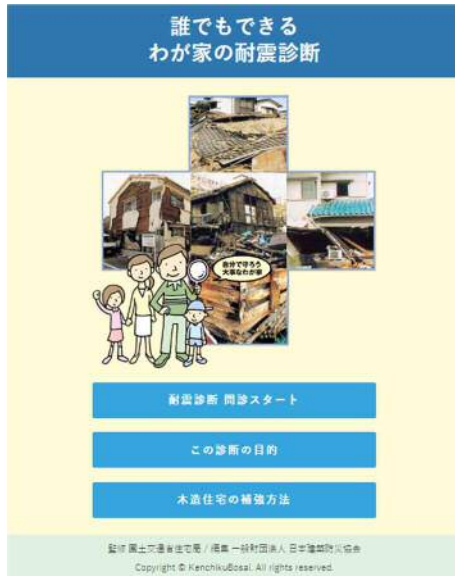
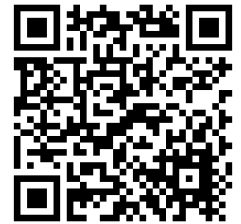
兵庫県医師会資料より作成



①建物の耐震性の簡易診断

日本建築防災協会は、木造住宅の耐震性についての簡易診断ができるページを設置しています。

ご自宅の耐震性能の理解や耐震知識の習得を進めていただき、耐震性の向上を図るための耐震改修に向けて、より専門的な診断を行う際の参考にさせていただくことを目的に作られました。お住まいになっている住宅について、住んでいる方がご自身で住宅の耐震診断を行い、住宅のどのようなところに地震に対する強さ、弱さのポイントがあるかなどがわかるようにできています。

10項目の診断に回答するだけで簡単におおよその耐震性を確認することができます。



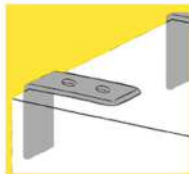
出典:日本建築防災協会

②家内の安全対策

転倒・落下・移動防止器具

L型金具（下向き取り付け）

- ・家具と壁を木ネジ、ボルトで固定。
- ・スライド式、上向き、下向き取り付け式があり、下向き取り付けが最も強度が高い。



粘着シート（マット式）

- ・粘着性のゲル状で、家具の底面と床面を接着させる。



出典:東京都

ポール式器具（突っ張り棒）

- ・ネジ止めすることなく、家具と天井の隙間に設置する。粘着マットやストッパーとの組み合わせで強度が高くなる。



着脱式移動防止ベルト

- ・壁とキャスター付き家具をつなげ、移動を防止する。



チェーン

- ・つり下げ式照明器具などをチェーンやワイヤーなどで結ぶ。



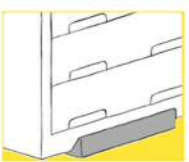
キャスター下皿

- ・キャスターの下に置き、家具の移動を防止する。



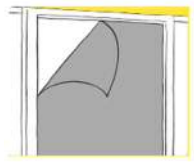
ストッパー式

- ・家具の前下部にくさびを挟み込み、家具を壁際に傾斜させる。



ガラス飛散防止フィルム

- ・ガラス製の扉、窓などに貼るフィルム。
- ・割れた際の破片飛散を防ぐ。



4 地域の防災つなぎ隊！！



いよいよ今年度最後の防災対策情報便となりました。最後の「地域の防災つなぎ隊！！」は、行政としての視点(災害対策課)と地域としての視点(自主防災会、民生児童委員)の両方を角度から地域の分析をしました。

インタビューしたのは、武庫地区常松山の中福祉協会の尾高と大庄地区崇徳院第6元民生児童委員の朝野です。

Q 地域の防災力について、二人は行政側からと地域側からの両方の視点で捉えることが出来ると思いますが、二つの視点から見たときの課題は何だと考えますか？

A (尾高)地域の防災力向上を目的とした取組みを行政として行っていることは知っているものの、実際地域で活動している中でその取組み自体が見えてこないのが問題だと感じている。

具体的には、例えばひょうご安全の日推進県民会議の防災資機材に係る助成事業であれば連協単位での告知はしているが、その情報が末端の単協まで下りてきていないのも実情である。

(朝野)地域の防災力向上を目的に、様々な取組みを行うなか、地域活動の担い手が高齢化によりその継続が課題という声が非常に多く聞かれ、行政として、どのように関わっていけるかが課題です。一方、地域住民としても同様、若手世代などに対し、地域活動にどうすれば参画してもらえるかが課題になっています。

Q 上記の課題を踏まえ、今後取り組んでいきたい地域での取組みはどういったものがありますか？

A (尾高)課題に挙げたように、制度というのは市民が活用できて本当に意味があるものになる。制度自体をまず知っていただくためには、行政側の努力も必要であると同時に、地域側としては活用できる制度を知ったならば、それを積極的に使うべきだと思う。

今は市独自の制度として存在しないが、例えば訓練や出前講座に参加した地域に対して備蓄するための支出について、市が一定の金額を補助する制度といったことも必要なのかもしれない。

(朝野)地域の防災力は、日頃のコミュニティの積み重ねと考えており、日頃の地域のコミュニティが災害対応力に繋がっていくと考えています。

日頃の様々なコミュニティ等との顔の見える関係を築くためには、まず、地域内の課題を知ることが必要と考えており、引き続き、地域活動に参画し、若手世代などに対し、地域活動を繋いでいくことの意識醸成に取り組んでまいりたいと考えています。